

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201384		
法人名	クリーンハウス株式会社		
事業所名	グループホームたんぼぼ札幌新道東		
所在地	北海道札幌市東区北36条東21丁目3-3		
自己評価作成日	令和6年1月18日	評価結果市町村受理日	令和6年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&jiryosyoCd=0190201384-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和6年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は利用者様が充実した日々を送れるように、一人ひとりの想いに耳を傾け、その想いを大切に、人の心に寄り添う気持ちを持ち、いつまでも自分らしく、穏やかな日常生活をお過ごしいただけるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームたんぼぼ札幌新道東は公園が近く、敷地内に保育園があり、子どもの遊ぶ姿が見える、住宅地の落ち着いた環境にあります。入居者の多くは、終の住処として、最期まで家庭的な温かさの中で過ごすことを希望しており、毎週看護師が訪問し利用者の健康管理をしています。医師とも24時間の連携を取り、重度化や終末期の支援が医療面でも安心できるようにしています。看取り期を見据えた支援を行っている利用者は半数近くに上りますが、法人として北海道の「働きやすい介護の職場」認定を受け、ICT化やロボットの活用など、介護負担を軽減し離職防止にも取り組んでいます。利用者の満足度の高い生活を目指し、三食の献立を予め決めずにできるだけ食べたいものを提供したり、コロナ禍にあっても家族と疎遠にならないよう、SNSを活用し写真を交えた細やかでタイムリーな連絡を実現しています。今後は家族の参加できる行事や事業所便りの復活など、安心と楽しみにつながるより一層の取組を予定しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念からミッション・ビジョンに変更され、ユニットに提示し、職員の共有に努めている。	法人の共通理念である「ミッション」を掲げ、それを実践するための具体的な「ビジョン」を事業所内各所に掲示しています。人事考課にもミッション・ビジョンの実践状況を設定し、職員自ら振り返るとともに、上司面談においても取り上げ実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の子供会との交流や、隣の保育園との交流、町内会館を貸し切り施設の敬老会を行い地域を交えた交流を図っている。	コロナ禍のため、地域行事自体が縮小、中止となっていますが、事業所でも地域交流が可能な検討を重ねています。運営推進会議に参加する町内会からも情報を受け、事業所側の災害時の地域への支援協力の方針についても伝え協力関係を構築しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会のイベントの参加等で、地域の人たちに認知症の理解や対応等について話をしたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、町内役員、入居者さまご家族に参加して頂き運営状況や施設での取組について報告し、頂いた意見をサービス向上に活かすようつとめている	運営推進会議は2か月おきに対面で開催しています。利用者や家族も参加し、様々な立場からの意見を受けています。議事録には議事の内容や寄せられた疑問に対する回答も記載し、家族に発送しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関する質問や変更事項について、市町村に相談し回答を得ています。	行政への空室状況の報告や、生活保護受給者の生活状況の報告や相談など、利用者の生活に役立つ情報を適時得るようにしています。運営推進会議で取り上げる議題のアドバイスなども含めて、透明性のある運営について助言を受けています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置している	身体拘束委員会を法人の事業所全体で組織し、管理者はその委員長を務めています。多くの事業所のグレーゾーン事例等を基に職員が自分で考えることで身体拘束の廃止を推進しています。今後は介護ロボットでの見守りも導入することになっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	ケア会議等で管理者や職員が話し合い学ぶ機会をもち、自分自身のケアの振り返りを行うことで虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は行っておらず、状況に応じ理解や勉強会の実施を取り入れていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学や入居契約の際に、管理者がご家族とご本人から不安や疑問をお聞きし、納得して頂けるよう十分な説明を行い入居契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族と良好な関係を築くことでご家族が面会で来訪された時に意見や要望を聞くことができる。意見や要望はケア会議等で話し合い運営に反映し行っている。	コロナ禍のため、家族が事業所に訪れる機会が減ったことで、利用者の受けているサービスや事業所運営が分からなくならないよう、家族と個別にSNSを活用してこまめな連絡を取っています。写真も交え家族の意見が出やすいように工夫し、双方向の意見交換を行っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議で職員が発言しやすい環境づくりをし、意見や提案を聞く機会を設けているが、ミーティングの際に話し合いや提案もだしていただいている。	職員会議では、職員全員が発言できるようにしています。本部職員が参加し、直接意見を伝えることもできます。北海道が認証する「働きやすい介護の職場」として、職員の声を反映できるような様々な取り組みを推進しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回の人事考課による評価・面接を実施し個人の目標や希望を聞き意欲向上に努めている。また職員の個々の状況や家庭環境にも目を配り、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら資格取得を支援する制度を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	求人活動を行うも求人が集まらまい為、苫小牧で外国人雇用されている「かえん」さんに訪問し、実際に働かれている外国人の雇用状況の確認や就業上の時における定着化の情報共有を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントし、ご本人様と話あい不安や要望を傾聴しながら良好な関係を築く事で安心と信頼関係が作れるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時に不安や要望に耳を傾けながら、サービス内容に反映させています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人家族様と話し合い、ご本人様が何ができるのかを把握し、生活の様子をアセスメントしながら対応し、ご家族様と相談しながら必要な支援をし努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、されるの関係ではなく、暮らしを共にする者同士が安心して暮らしていけるよう、良好な関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪した際や電話連絡等で日常の様子や健康状態を報告し、ご家族様の要望を聞きながら共にご本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が入居前にお付き合いされていた友人や親戚等への定期的な電話での話や行事へのお誘いのお手紙等、関係性を継続できるような支援に努めています。	知人や家族からの電話の取次ぎなどの他、来訪してもらえよう事業所から連絡を取り入居前の関係を維持するようにしています。面会制限の緩和の他、家族にはSNSで利用者の状況や感染予防の取組なども伝え、安心して来訪し、交流できるようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアにて過ごされている利用者様で孤立せずに楽しみながら暮らせるよう支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要に応じて相談や支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で関わり対話することで、ご本人の考えや想いを把握し、意思疎通の困難な場合も日頃関わる中で、想いや気持ちに寄り添える様に、アセスメントシートで情報を共有し寄り添ったケアに努めています。	本人からの話をよく聞き、生活の希望や、どのように医療を受けたいかなどを確認しています。重度化などにより意向が確認できない場合は家族からの情報提供や本人の価値観、生活歴などを基に、職員が検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人とご家族様に生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境を確認し、これまでの生活が継続できるように、あるいはこれまでの生活に近づけるように情報をアセスメント等で共有し努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で健康管理や心身の状態をしっかりと確認し職員同士情報共有を行い、現状の把握、また残存機能の維持や向上に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の様子はモニタリングシートに基づいてご家族様の意見を聞き、職員会議等で話し合いを行い、現状に即した介護計画を作成している。	本人の身体状況や、できること・できないことをアセスメントし、どんな生活をしたいかを聴取しています。意欲的に生活できるよう、本人の希望を踏まえた支援になるようにしています。利用者ごとの担当職員からも計画の実行状況を確認しモニタリングを行い、新たな計画を立案しています。	職員は2ユニット共通で、全ての利用者の介護を担っています。そのため、介護日誌に介護内容を予め印刷し、個別支援を実践しています。今後は、新人の職員が入った場合も介護計画の深い理解を促し、日々の介護が計画に定めた目標の達成にどのような意味を持つのかを意識できるよう取組んでいくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に支援経過記録・アセスメントシートに記録し、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況、その時々に必要な事を職員で話し合いすぐに対応出来ることは柔軟にしている。ご家族に相談が必要な時はその都度ご家族に同意を得て最良な支援に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会の一つである町内会を活用し、町内会のイベントへの参加やご本人のQOLの向上に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の意向を尊重し、事業所と往診医との連携を大切に、適切な医療を受けられるよう支援しています。24時間の緊急体制も確保出来ている。	事業所では24時間対応の通院・訪問医療と訪問看護が利用でき、入院が必要になった場合にも切れ目のない支援を受けられるようにしています。病状を家族にこまめに伝え、意向を確認しながら協力して利用者の健康を支えています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に身体変化について日誌に記入し職員間で情報を共有している。往診医・訪問看護師に報告・相談し指示を受けながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族様と同席し説明をうけています。入院時ご家族の希望要望とご本人の様子を報告し、早期に退院できるよう施設の意向を聞いてもらい病院との情報交換や相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時重度化した場合における対応に関わる介護の指針をご家族様に説明しています。	現在、看取りを希望する利用者が半数ほどとなっています。その希望を叶えるための医療との緊密な連携体制を整えています。また、家族が看取り介護の実際の状況についてイメージできるように説明書面を作成し、丁寧に説明しながら支援方針の同意を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員応急手当Web講習を受け資格を受給しているが、定期的に訓練が出来ていないため実践力を身に着けるため訓練をする必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時についての話し合いをしたり、備品や備蓄などの整備を行っている。	令和5年度は冬期に昼間想定避難訓練を行っています。訓練では、発電機の起動や初動対応の優先順位付けなど、今後の課題が見いだされました。備蓄は敷地内にある保育園の物を含め潤沢に用意しています。また、BCP（業務改善計画）も策定しています。	避難訓練は、時季や想定を変え計画的な実施を期待します。また、訓練を通じ得られた改善課題を次回の訓練で解消していくことも必要です。事業所で検討している、災害時の事業所の機能の地域への還元についてもBCPIに反映していくことを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応を心掛け、ご本人の意向に沿う対応を心がけています。	入居時に、利用者や家族に「利用者の権利」を説明しています。また、職員はOJTにより言葉使いや、業務より利用者の意思を尊重した暮らしの提供が優先することを日常的に伝えていきます。一緒に生活する一員としての他の利用者との交流と、一人になりたいなどの個別の希望を尊重しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話を通してご本人の思いや希望を傾聴し、自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	1人ひとりのペースを大切にしながら、その日の過ごし方を可能な範囲で希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪したり、ご自身で洋服を選んでいただいたり、その人らしい身だしなみができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	玉ねぎの皮をむいてもらったり、焼きそばの野菜を炒めてもらうなど一人ひとりの力を活かしながら食事が楽しみになるよう支援しております。	食事の献立は予め決めず、その都度利用者の希望を取り入れて調理しています。食欲がない場合も利用者が食べたいものを用意するなど、口から食べられるよう工夫しています。食事に関する家事にもできるだけ参加してもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・排泄・食事量のチェックシートを用いて個々の状態を把握し身体の状態や好みなど入居者様に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お声がけし口腔ケアと義歯洗浄を促しています。介助が必要な入居者様には介助を行いながら口腔ケアが習慣となるよう支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを用い、排泄の間隔をつかみトイレでの排泄を続けられるよう支援している。排泄用品も入居者様の負担にならないよう自立に向けた支援をしている。	利用者の排泄リズムを把握し、トイレでの排泄を支援しています。また、オムツなどを使用する場合は排泄の間隔や量、皮膚の状態、日中か夜間かなどを総合的に検討し、利用者の自尊心に配慮した支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・排泄・食事量のチェックシートを用いて排便間隔を記録し、水分量や食事に注意し便秘予防に取り組んでいる。できる人は体操をしたり、施設内を歩行したりと身体を動かすよう働きかけているが、便秘が続く際にはDr指示のもと服薬調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人ひとりのタイミングや時間に合わせたり、浴槽に入れる方は入浴剤を用いて気持ちよく入浴できるよう支援している。清拭の方はプライバシーに配慮しながら声かけ、見守り、介助を行っております。	入浴できる場合はできるだけ湯舟に浸かってもらうようにしています。重度化や看取り期に入っても入浴ができない場合でも、ベッドで寝たまま洗髪をしたり、清拭するなど、清潔を保つだけでなくさっぱりと気持ちよい気分になってもらえるように工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様は休息したい時に居室に戻り休まれたり、リビングでうたた寝するほど自由にしていただいています。またリハビリ等で疲れが見られる入居者様には居室で休んでいただけるよう状況に応じて支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様毎に薬剤情報をファイルし、職員がいつでも確認できるようにしている。入居者様の様子や服薬後の変化は職員で情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の好きなことや得意なことを把握し気分転換などの支援を行っている。散歩や体操・新聞折り等参加していただける環境づくりをしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々のイベントを楽しみドライブに出かけ、花等をみて楽しめるよう支援している。	通院時など個別の外出の際に、気分転換に回り道や買い物をしています。また、事業所の敷地内に保育園の園庭があり、子どもの様子を見がてら外気浴を行っています。コロナ前は家族も参加できる外出行事を行っていましたが、気候が良くなってから再開を検討しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理は難しくなっております。欲しいものが出た時にはご家族に確認し購入できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があれば電話で話をしたりとやり取りができるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分でも居心地がよく過ごせるように気温や湿度に注意し、乱雑にならないよう清掃をして清潔を保つようにしている。季節により飾りを変えるなど季節感を感じられるようにしています。	共用部分には、節句などに合わせた装飾で季節感を感じられるようにしています。エアコンを設置し、夏の暑さ対策を行っています。冬期間も室温を24度から26度に設定し、加湿器や濡れたタオルを干すなどして湿度管理を行っています。利用者は居間でコーヒーを飲んだり、新聞を読んだりなど思い思いに過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の関係性を把握し、テーブル席等に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が家で使っておられた物や、家族の写真など居心地良く過ごせるよう工夫している。	利用者の居室には使い慣れた家具を持ち込んでもらうよう伝え、その人らしい部屋になるようにしています。生活動線の確保は、利用者の身体状況に合わせて安全に配慮しています。今後は、地震による落下物の危険がないかなど、災害時の安全確保も進めていく予定です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで手すりが設置してあります。歩行が不安定な入居者様は手すりを使って職員が見守りながらなるべく出来ることはしていただき、ご本人様の安全に生活していただけるよう工夫しております。		